

平成25年度 新潟市立西川図書館施策・事業評価シート

※ ◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。

◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

西川図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 ・レファレンスサービスの充実	・市民に身近な生活課題解決のため、レファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	レファレンス件数は、1.8%の減少となった。	気軽に声をかけていただくためには、窓口で人を多く配置することが必要だが、十分な人員配置ができなかった。	1 大変評価する。 2 ある程度評価する。100% 3 評価できない。	・カウンターの近くにレファレンスサービスの案内があり、以前よりも利用者に周知されていると感じます。また、子ども向けにも分かりやすく掲示してあります。
	◆館の重点評価項目 ・パス・ファインダーの作成	・西川図書館でパス・ファインダーを作成する。	他の業務を優先させたため、今年度も作成できなかった。	郷土について案内の手引きとして、パス・ファインダーは有益である。公共図書館の資料が学校生徒の学習に役立つようなテーマで作成することが望ましい。	1 大変評価する。 2 ある程度評価する。33% 3 評価できない。67%	・実施できなかった事については、評価しようがありません。 ・パスファインダーは有益との認識ですので、来年度は確実に実施されることを望みたい。
分権型図書館	◇全館共通評価項目 ・地域資料の収集	・区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する。 ・特に地域在住者の著作の収集に努める。	資料が古く傷んでいても貴重な蔵書として受け入れて、開架に置くことに努めている。また資料によっては、その価値に応じて複本として何冊も受け入れる。	資料数は、中央区、秋葉区に次いで多い。地域・行政資料は、特に充実が必要な分野なので、蔵書すべき資料で漏れているものは入手に努める。	1 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。50% 3 評価できない。	
	◆館の重点評価項目 ・利用者懇談会の開催	西蒲区の居住者を対象に、図書館について率直に語り合い、多様な声を聞くことを目的とする。	実施しなかった。	開催した図書館は今年もなかった。実施する際には、必要なタイミングで、ノーテーマでなく、テーマを明確化して、活発に議論が深まるように企画することになる。	1 大変評価する。 2 ある程度評価する。17% 3 評価できない。83%	・開催する意義がないのなら事業からはじいたらどうでしょうか。 ・参加者を集めることは大変ではないでしょうか。 ・利用者市民の声を聞くことは大切だと考えます。開催方法とかテーマを検討して、実現を期待します。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目 ・ブックスタートの実施	・1歳誕生歯科健診会場において、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験していただく「ブックスタート」を実施する。	巻地区(巻地域保健福祉センター)と潟東地区(潟東健康センター)にて年間18回実施。1歳児の参加人数は、328人。ボランティア登録者数は、22人。	ボランティア養成講座を実施し、新たなボランティアを確保した。関係課との運営会議を行い、意見交換をとおしてより良くなる方向で検討を重ねている。	1 大変評価する。83% 2 ある程度評価する。17% 3 評価できない。	
	◆館の重点評価項目 ・学校図書館の夏休みの地域支援(学校図書館支援センター)	・夏休み期間中、学校図書館の地域開放に向けた支援を行う(複数校)。	西蒲区と西区の小学校12校で計12回実施、参加者数438人(前年度は、7校で8回実施、参加者数は275人であった)。	学校と市立図書館が連携し、子どもたちの読書活動を推進する。学校司書、コーディネータ、ボランティア等と協働して事業を実施する。年々増加の傾向にある。	1 大変評価する。83% 2 ある程度評価する。17% 3 評価できない。	
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目 ・共催事業の実施	・市民との協働をいっそう推進するため、共同主催者として事業の企画または運営に参加し、責任を分担して実施するものである。	新たな共催事業は、申出する団体がなかったため、実施しなかった。	共催事業回数は、西蒲区は中央区の次に多いという結果になった。共催について再考が必要な時期に来ていると考えられる。	1 大変評価する。17% 2 ある程度評価する。66% 3 評価できない。17%	・図書館に共催事業までは必要がないと考える。
	◆館の重点評価項目 ・ボランティア交流会の開催	西蒲区図書館で実際に絵本の読み聞かせボランティア活動を実践している方を対象に交流会を開催する。	特別なテーマがなかったため実施しなかった。	おはなし実演前の選書の段階、また実演後に話し合う場をもっている。日常的な交流の中で問題解決は可能である。	1 大変評価する。33% 2 ある程度評価する。33% 3 評価できない。33%	・日常的な交流の中で問題解決を図っていて、ボランティア交流会の開催が必要ないのであれば、重点評価項目から削除して良いのではないかと。